参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	文学部
課程・学年	学部・１回

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由（なぜ本プログラムを選択したのかなど）
英語力を身につけるためには，海外で実際に使われている英語を現地で直接学ぶことが必要だと考えていました。しかしながらこれまでに私は日本以外の国で生活したことがなく，長期の留学を準備なしで行うには少し不安を覚えていたので，約一か月という短期でありながらも，ホームステイかつ授業形式で英語を学ぶことができる本プログラムが，語学力向上のための第一歩に最適だと考えました。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
ニュージーランドという国の文化について情報収集を念入りに行いました。非常に多文化な社会であるという情報を得るうちに，アジア人留学生として懸念していた治安の面においても安心感を得たことを覚えています。また，留学期間をインプットだけでなくアウトプットの場にもできるよう，事前に英語をある程度勉強しなおしました。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
何よりも，中国の留学生が多いことにまず驚きました。ある程度アジア系の留学生が多くなることは想定していましたが，自分のクラスメートの国籍の比が日本と中国で 1:1 になるとは思いもしませんでした。しかし，中国人留学生は概して英語のレベルが高く，彼らとの会話が常に刺激となりました。講師よりも，ホストファミリーよりも，中国人と一番英語で会話をしていました。授業に関しては，初めの 2，3 回は大学受験レベルの文法事項が中心で，あまり楽しいものではありませんでしたが，私たちのクラスのレベルが高かったこともあり，次第にディスカッションと発表が中心の，双方向的な授業となり有意義でした。
現地での生活について （滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
自然環境が豊かで，非常にゆったりとした雰囲気が流れていた土地でした。オークランドはニュージーランド一の都会でしたが，郊外のほうへ行けば，大きな公園や丘，高原やビーチが市民に解放

されており，窮屈な日本とはまるで異なる穏やかな美しさがありました。しかし現地は冬の終わりで，出発前の真夏の京都と比べると当然ながら非常に寒く，私は初めの 3 日ほどで体調を崩しました。症状が重く病院へ行きましたが，なんとか病状を英語で説明することができ，ドクターに褒められたことで自信がついたことを覚えています。
参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
慣れない土地で体調を崩し，非常に心細く不安に駆られましたが，電話対応サービスや保険の案内が手厚かったことで非常に安心しました。外国人には病院の診察代は非常に高額なものとなりますし，自分の体調にも絶対は存在しないので，万一のことを考えて保険に加入しておくことが大切であると痛感しました。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
キーウィの文化，マオリの文化，中国の文化，日本の文化と，授業を通して様々な形でお互いと交流するうちに，文化的多様性を尊重する視点が身につきました。オークランドは文化・芸術を力強くサポートしている街だったので，街を歩くだけで学びが得られました。語学力については，一か月という短期で大幅な向上を望むのにはやはり限界を感じましたが，何よりも英語を話すことに対する抵抗感がなくなったのが大きな収穫だと感じています。自分が英語を話さないと，他人と全くコミュニケーションをとることができないという環境に自分自身をおくことで，英語を話すことに対する自信が生まれたように思います。また，語学力の壁を痛烈に実感したことで，これからの英語学習に対する強いモチベーションを得ることができました。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
私の支払った参加費が，派遣先学校，ホームステイ先，エージェントのうちでどのように配分されているかを把握していないので，費用は高いとも安いとも言いようがありません。しかし生活費を含まない，プログラム費用と航空券費用のみで 70 万円を優に超えたことを鑑みると，8 万円という大学からの支援金をもってしても，学生にとって金銭的ハードルは高めであるといえます。
自由記述欄
本プログラムに参加した経験が，英語に対する自信と向上心を抱くきっかけになりました。強いモチベーションを持ったまま，語学力の向上のために努力を重ねていきたいと考えています。また同時に，異文化理解の態度を養うこともできたことは，多文化社会であるニュージーランドならではの収穫であると考えています。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	法学部
課程・学年	学部・4 年

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	8 月 14 日（月）~9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由 （なぜ本プログラムを選択したのかなど）
仕事をするにあたり英語力を伸ばす必要があり、学生の間に一度英語圏に滞在する機会が欲しいと思ったから。このプログラムに参加した理由は、準備期間が短かったことや（英語のスコアなどが必要なく）ニュージーランドは治安がいいと聞いたため、初めての一人での海外滞在には最適だと思ったから。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
テスト用の対策はしませんでしたが、オンライン英会話を受講していました。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
授業は 1 コマ 2 時間で 15 分の休憩を挟んで 2 コマありました。15-20 名程度で 1 コマ目にタイ・中国・韓国などの学生がいましたが、三分の二は日本人でした。2 コマ目は 9 割が日本人でした。 授業では、ニュースや犯罪に関するプレゼンやディベートを行いましたが、ボキャブラリーが難しく苦労しました。講師がコロナにかかり、一週間代理の先生の授業でした。 また、授業外のアクティビティとして、オークランド大学のボランティアと学生 10 名程度で交流するアクティビティや講師と 20 分間会話をするアクティビティがありました。後者では、マオリの文化や福島処理水などの話をしました。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
基本的な移動はバス・電車でしたが、フェリーに乗って対岸や近隣の島に行くことができました。公共交通機関は共通の AT ホップカードを利用して乗車することができ、アプリではバスの現在地や何分後に到着するかを確認することができ、非常に便利でした。 キウイのホストマザーと二人で滞在しましたが、野菜炒めや鶏肉、また、手作りのハンバーガーやピザが出てくるところもありました。ハウスルールとしてシャワーは 15 分以内に済ますようにと言われましたが、それ以外は特にありませんでした。

参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
プログラム開始前にツールの利用方法が送られてきましたが、問題なく利用することができました。初日にサポート体制に関する説明がありました。私は利用しませんでしたが、週一回授業などに関する質問・相談をすることができるチュートリアルがありました。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
英語のスピーキング能力やリスニング力はかなり向上したように感じます。 また、テスト後の授業内ではマオリの伝統的な棒遊びを行ったり、オークランド博物館でハカを鑑賞するなど文化に触れる機会は非常に多かったです。 クラスメイトはもちろん観光先やフェリーの中で現地の方や観光客の方と交流し、ネットワークを得ることができました。一方で現地学生との交流はほとんどなく、ネットワークを構築することは難しいと感じました。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
一カ月という短期であったことから渡航費もふまえて少し割高に感じましたが、滞在先ではストレスなく、全体を通して非常に貴重な経験ができたので、満足度の高いプログラムでした。
自由記述欄
最初は唯一のホストマザーが家を空けている時間や部屋にいる時間が多く、思っていたより英語を使う機会が少なく残念に思っていましたが、できる限りいろいろな人と積極的に交流することで日本人以外の生徒とも放課後に遊びにいくなどすることができ、英語を使う機会を見つけることができました。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	法学部
課程・学年	学部・１年

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	8 月 14 日（月）~9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由 （なぜ本プログラムを選択したのかなど）
時間にゆとりがあるうちに、高校生の間コロナでできなかった短期間の留学をしてみたいと考え、援助費用の出る本プログラムを選択した。英語力には自信があったが、いざネイティブの人と会話するとなると、スピーキング能力に少し不安があったため、強制的に英語を話さなければならない環境に身を置きたいと考えた。また都市部で暮らしているため自然の多い国に行きたいと思い、ニュージーランドを選らんだ。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
チップはどの程度渡す必要があり、タブー視されている言動はあるかなど基本的なニュージーランドの文化を調べた。航空券や生活用品を購入し、外務省の旅レジに登録した。プレースメントテスト前には、様々な英語の映画を見てシャドーイングした。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
中国人と日本人が半々で、２０人程度のクラスだった。自国の文化や法律を互いに説明しあって、それぞれの良さや悪さを語り合う授業などでは非常に互いに興味深く、盛り上がった。ディスカッションを中心とする授業で、生徒が机を囲んで輪になって授業を受ける点が日本と異なっていた。また、先生が自分を「先生」と呼ぶのではなく名前で呼ぶようにとおっしゃって、距離の近さを感じた。わからなければすぐに質問して、会話のキャッチボールが先生と生徒の間で速いテンポで交わされていた。先生が意図せず悪い例として中国で起こったことを例として挙げ、中国人の男の子が人種差別だと先生を激しく非難したことがあった。どちらの言い分も共感できたが、人種差別だと感じた人を否定はできないと思った。改めて人種差別という問題について考える機会となった。また、大きく声を上げた少年の勇気に感銘をうけた。

現地での生活について （滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
フィリピン人の家庭にホームステイすることになり、さまざまなフィリピン料理を楽しませてもらった。ニュージーランド人の暮らしがどのようなものかは体験できなかったが、ホストファミリーがニュージーランド人のアジア人との違いなどについてたくさん話してくれた。キウィと呼ばれるニュージーランド人は自立を重視し、子供にそれほど干渉しないということを多くのほかのホームステイ先を見て感じた。
参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
中国人学生の英語レベルが非常に高く、語彙力や発音の上手さに大きな差を感じたが、できるだけ言いたいことを伝えようとする努力を必死にしたら、中国人の子たちは真摯に応えてくれて会話を広げてくれた。このように生徒同士で教えあうことが多かったが、先生もこまめに理解度を確認してくれた。また、両替に困っている時など、解決しにくいちょっとしたことを受付で相談したら丁寧に対応してくれた。チューターの方々は大半が気さくで非常に話しやすい。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
毎日 4 時間の英語の授業を受けることで、リスニング能力とスピーキング能力は確実にあがった。そして、何よりも毎日知っている単語が増えることが嬉しかった。クラスでは日本なまり、中国なまり、ニュージーランド特有の英語に触れ、夜にはフィリピンなまりの英語を聞く。最初はすべてが聞き取りづらかったが、気づけばすべてを聞き取れるようになっていて意思疎通ができるようになっていた。ホームステイ先の中国人の子は英語を大学で専攻していて非常に英語力が高く、家でも映画を一緒に映画を見たりして英語の勉強ができた。このように、さまざまなルーツを持つ人々に囲まれて文化を学びながら、聞き取り能力が上がった。中国が非常に情報統制されているという現状や、美味しければ食事を残すなどの文化があるというのは実際生活している人の口からきく生き生きとした文化で興味深かった。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
物価が高騰し、渡航費もかなり高いため、親からの援助を受けてもかなり苦しい状況となった。その一方で、スーパーでできるだけすべてをそろえることで、生活費を抑えたりする術を学べた。また、ホストファミリーなど現地の人から仕入れる安い店の情報が非常に重要だと思った。
自由記述欄
日本に比べて水道設備や空調設備がそれほど発達していなかったが、水を大切にする姿勢や自然を壊さず自然に生きる暮らしについて考えるきかっけとなった。バスの運転手が乗客を気にせず休憩をとったり曲を大音量を流したり、知らない人でも挨拶することに最初は慣れなかったが人の間にあるぬくもりを感じられた。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	法学部
課程・学年	学部一回生

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）2023 年~9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由（なぜ本プログラムを選択したのかなど）
大学入学時から留学をして自分の英語力を伸ばしたいという思いがありました。まだ大学一回生で語学資格は不十分で、初めての留学でもあったため、気軽に参加することのできるこのプログラムを選びました。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
最初の準備として英会話教室に通い、現地での生活をしていけるよう語学力の向上を目指しました。また、海外に行くための準備として各種保険の加入、パスポートの更新、ワクチンの接種証明書の準備などをしました。下宿生で、住民票などは地元に置いたままで行政書類等の提出は地元でする必要があったので、渡航前に何度も帰省をして準備をしていました。 渡航直前には、渡航時に持参していくものの買い出しや、各種ワクチン接種などをしました。留学期間は 1 か月と短かったものの、準備にはそれ以上の時間がかかりました。かなり大変でした。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと（講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
先生方はどの方もフレンドリーで、刺激的な授業でした。クラスメイトもみんな会話をする意欲があり、授業中の雰囲気も良かったです。日本の授業とは違い、英語で考え、英語で自分の意見を言う機会がとても多く、英語での自分の意見の組み立て方を学ぶいい機会になりました。 一方で、時期の関係もあったと思いますが、学校内に日本人の留学生がとても多かったです。外国人留学生の友達があまりできずに日本人と一緒に過ごしていたので、最初は少し困惑しましたが、海外での日本人との出会いもとても刺激的なものになり、新たな友達を作る機会になったので僕にとっては良い経験でした。その人たちのおかげもあってか、ホームシックになることはなく、毎日楽しく過ごすことができました。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
ホストファミリーの方とはすぐに良い関係を築くことができました。毎日夕食は一緒に食べ、家族のアクティビティにも参加させてくれました。両親ともとても勤勉な方で、朝早くから仕事をして、夕食後にはスーパーの清掃のパートもしていました。ファザーはとにかくフレンドリーな方で、会話する

のが楽しかったです。お調子者の一面もあって、いつも笑わせてくれました。マザーもフレンドリーな方で、とても頼りがいがありました。学校から帰ると、「学校どうだった？」と聞いてくれてそこから長時間会話することもあり、とても楽しかったです。マザーとの雑談のおかげで自分の英語力を伸ばせたと思っています。両親のほかにも息子さんやお孫さん達ともたくさん関われました。家族の一員となって一か月間過ごすことができました。
参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
ACEJ の方には留学前から全面的なサポートをしていただきました。分からないことをメールで聞くとすぐに返信して教えてくださり、とても支えになりました。現地学校のアドバイザーさんもフレンドリーな方でいつでも相談できる状態でした。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
＜語学力に関して＞ この留学を通して一番実感できたのは、自分の中で英語を話すことの難易度が下がったということです。留学当初、文法を気にしすぎてしまって自分の思いをうまく伝えることが難しかったのですが、過ごしているとネイティブの人でも簡単な文法ミスをしていることがわかりました。これに気づいてから「文法を気にして遅くしゃべるよりも、少しの文法ミスは気にせずにできるだけ早く自分の思いを相手に伝えるほうが会話においてはスムーズなものになるし、より流ちょうに話すことができるのだ」と思うようになり、実際に流暢さが高まったと実感しています。 ＜異文化交流に関して＞ 今回のホームステイでニュージーランドの暮らしを体験して、日本とは違うなと思ったところがいくつかありました。まずは、朝がとても早いということです。両親の仕事が朝 5 , 6 時から始まり、午後 2、 3 時には終わり家に帰ってきていました。自分の家族の一例ではありますが、朝早い分、終業も早く、夕食をみんなで必ず取るという生活スタイルはとても良いものだと思いました。通学のために毎日朝早くの電車・バスに乗っていたのですが、6, 7 時台から仕事や学校に向かう人がいました。宗教の違いも実感することができました。ファミリーがキリスト教だったので、日曜日には日曜礼拝に行かしてもらいました。協会では、みんなでポップな賛美歌を歌い、聖書を読み、そのあとはみんなで軽食を取りながら雑談しました。思っていたよりカジュアルな礼拝で驚きましたが、参加している方はみんな真剣に歌を歌っていました。中には涙を流している人もいました。キリストを真剣に信じている姿を見て、日本では感じることのできない宗教の文化を体験することができました。 〈現地学生との交流に関して〉 時期の関係もあってからか、学生は日本人がとても多かったです。 1 クラス 15 人前後だったのですが、そのうち 10 人ほどが日本人で、のこりの 5 人ほどが中国、韓国、タイ、コロンビアの方でした。海外の方は年齢層が幅広く、中には 30 歳ほどの方もいました。週 5 回の授業を共に受け、生徒同士でディスカッションをする時間がとても多かったです。授業後にはクラスメイトと昼ご飯を食べに行ったり、オークランド観光に出かけたりととても充実していました。現地で出会った方たちとはインス

タグラム等の SNS で今でもつながっており、これから先の交流を期待しています。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
初めての留学だったので相場はわかりませんが、費用自体はとても高かったと感じています。ですが、この留学を通して様々なことを吸収し、様々な方との出会いを経験することができたので、とても満足しています。 現地の物価は高かったです。食費、観光費用等は日本よりも多めにかかってくると思います。
自由記述欄
今回の留学を通じて、様々なことを経験してきましたが、一番の思い出は「人との出会い」でした。まずは僕を迎え入れてくれたホストファミリーの方との出会いです。毎日学校から帰ると、必ず今日はどんな日だったかを聞いてくれたり、休日には家族のアクティビティに誘ってくれたりするなど、いつも積極的にかかわってくれました。僕の留学生活が素晴らしいものになったのはファミリーのおかげです。彼らとは SNS で今でもつながっていて、定期的に電話するなどして交流を続けています。今はお互い遠く離れていますが、また必ずオークランドに行って再会したいと思っています。 次の出会いは、一緒に留学生活を過ごした学校の仲間たちとの出会いです。前述しましたが、学校には日本人留学生が多く、仲良くしていた仲間も日本人がほとんどでした。留学前のイメージでは、留学とは日本語から離れて英語のみで生活していくことだと思っていたので、最初はどうしていけばいいのか困惑しました。でもその困惑以上に仲間たちが魅力的だったので、一緒に過ごしたい、この仲間たちと楽しみたいと思うようになり、困惑はなくなり、留学生活がより豊かになりました。日本人がいるという安心感のおかげでなれない海外生活を安心して楽しむことができました。他にも、日本人間で日々の留学生活で気づいたことなどを共有することができ、日本人と過ごしていたからこそ、そのほかの時間は英語を積極的に使っていこうと意識するようになりました。普段であれば出会うことのできなかった日本人との出会いはとても刺激的で、僕の財産となりました。彼らとも SNS で今もつながっており、日本での交流も期待しています。 海外の仲間ができたことも大きな財産の一つです。授業中や放課後の遊びの中で、彼らとはたくさん交流しました。日本とは異なる感覚を肌で感じた経験は、とても印象に残っています。彼らとも SNS でつながっており、これからの交流も楽しみにしています。 一か月間という短い期間の関わりではありましたが、これから先もつながっていたいと思えるような出会いばかりで、留学というものを通じて人と出会うことのすばらしさを感じることができました。自分の人生が出会いによって豊かになった、そう思える体験ができ、さらなる英語の学習、そしてその先の二回目の留学への意欲がわいています。 今回で得た思い出、経験を財産として、また日々の生活を楽しんでいきたいと思います。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	工学研究科
課程・学年	修士課程 2 年

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	米国
大学名	ワシントン大学
プログラム名	Language & Culture Short Term English Program (STEP)
実施期間	8 月 21 日（月）~9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由 （なぜ本プログラムを選択したのかなど）
二点ある。第一に、現地の人々との交流を通じて他国の文化・土地柄などを体験するため。私は国外に滞在した経験がなく、卒業して社会に出る前に、他国の人々の考え方、生活のあり方を広く学びたかった。第二に、英語力を向上させるため。基礎的な語学力を向上するため、STEP を選択した。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
二点ある。第一に、アメリカ文化をネット検索などで学んだ。挨拶の仕方から食事のマナーに至るまで、幅広く調べて臨んだ。第二に、英語の練習をした。日本では英語を話す機会がほとんど無かったため、単語帳・例文集などを読み学習した。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
講師について：教科書を読み上げる授業の多い日本と比較すると、生徒に発言を促す教員が非常に多く、「学生の体験したい授業を、学生の手で作らせる」といった姿勢が色濃く現れていた。また、（これは短期留学プログラムだからこその体験かも知れないが）授業中に外へ連れ出してもらう機会が多くあった。博物館や文化館、観光名所などを訪問し、現地の文化や歴史に触れる、体験型の授業であった。 課題について：問題集を解かせることの多い日本の宿題と異なり、「現地の人々と会話する」といったアクティブな課題が課された。シアトルの住民にインタビューを行い、その会話を通して、語学力やコミュニケーション力を向上させられるよう意図されていた。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
物価：日本と比較して非常に高い。外食は、高級なものでなくとも最低 10〜18 ドル（日本円で約 1500 円〜2500 円）ほどはする。水は、安くでも 1 リットルで 4 ドル（約 600 円）。また、家賃が非常に高騰しており、ワンルームで 1 ヶ月、20 万円するアパートも珍しくない。家賃の急激な上昇で、ホームレスが急増し、問題となっているようだ。 食事：油ものが多く、フライドチキンやフライドライスなど。外食で美味な店はほとんどない。

参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
プログラムチューター：週に 1 回ほど、体調や精神状態について、メールで回答する機会があった。 留学エージェント：基本的に滞りなく手続きをしていただき、出国からホームステイ先での滞在に至るまで、スムーズであった。 参加者同士：STEP プログラムの参加者同士で、情報共有を行いつつ課題などを行った。ただ、学生の大半は日本人であった。他の国籍の学生がもっと多ければ、さらに学びを得られたと思う。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
先述の「他国の文化や土地柄を体験する」という目標を達成できた。主には、①NO とはっきり言う文化、②居住地に色濃く現れた貧富の格差、である。①について、何かを断るとき、NO と明確に発言しないと意思が伝わらない。日本では「ありがたいのですが」「遠慮させて頂きたく」などの婉曲的な表現が好まれるが、アメリカではそれほどの気遣いは必要とされない（むしろ相手を混乱させる）。②について、地域によって治安が全く異なり、居住者の豊かさも異なる。例えば私の滞在したシアトル北部は針葉樹林の多いエリアで、非常に治安がよく、立派で大きな家が多い。逆に南部のタコマ空港付近はギャングのいるエリアで治安が悪く、毎晩のように銃声が聞こえるとのことである。両者の中間エリアは繁華街で、飲食店、小売店、観光地が多い。治安は悪くはないが、ホームレスが多い。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
参加費について：ホームステイ先による食事も含んだ料金であったため、妥当であると感じた。一方で、学生が気軽に用意できる金額ではないことも事実である。もし、より低価格になれば、より多くの学生が留学の機会を得られ、他国の興味部深い文化を学ぶことができるのではないかと考える。
自由記述欄
総じて、学びの多い 3 週間であった。現地の学生と交流し、繋がりを持てたことは非常に貴重だ。また、月並みではあるが世界の広さを身にしみるように感じた。様々な文化を知るために、アメリカ以外の国への渡航（短期間の留学や旅行など）も検討したいと考えている。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	文学部
課程・学年	1 回生

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由 （なぜ本プログラムを選択したのかなど）
将来海外で働きたいと考えており、自身の英語力を向上させるために長期留学を考えていた。その第一歩としてこの短期プログラムに参加しようと思った。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
SNS で海外留学についての記事を読んだり、動画を見たりして自分の留学のイメージを膨らませていった。楽しい側面ばかりではないことを事前に知っておくことは重要だと思った。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
先生が一方的に教えてくれる日本の授業とは違い、常に自分の意見を求められ、能動的に授業に参加した。同じクラスに中国人留学生が多くいたが、彼女たちは自分の考えをしっかり持っていて、それをみんなの前で発表するのも上手だったので刺激を受けた。1 日の中で 2 コマの授業があり、2 つ目の授業はスピーキングが多く、このレッスンのおかげで英語では話すことへの躊躇が減った気がする。また、この授業のテーマがアイデンティティやアートといった日本語で考えても難しい、クリエイティブなものだったが、自分を見つめなおす良い機会になったとともに、クラスメイトの考えをきくのも大変面白かった。最終週のマオリの授業は、今まで知らなかったことばかりでニュージーランドの歴史をもっと深く知ってみたいと思った。
現地での生活について （滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
ホストファミリーはとてもやさしい人たちで、食事もおいしかった。ニュージーランドの人たちは早寝早起きだったので私もそれを見習って、日をまたぐ前に就寝していた。この習慣によって幸福度が上がった気がした。日本で乱れた生活をしていたが、健康的な生活を送ることがいかに重要かに気付かされた。気候も過ごしやすかったが、唯一気になった点としてはやはり物価が高かった点である。ランチをするだけでも軽く 1500 円を超えてしまうのは大変であった。

参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
同じプログラムに参加した学生と仲良くなることができ、非常に心強くかった。また、そのおかげで楽しい一か月を送ることができたと思うので、大変感謝している。ただ、今回のような短期留学ではよいかもしれないが、案外日本人学生が多く、現地の人たちとの関わりが少なかったことを考えると長期留学には向かないと思った。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
このプログラムを通しての一番の学びは、「英語はコミュニケーションツールである」ということである。いままで英語を半強制的に、また受験のために勉強してきたが、英語は人と考えや感情を共有するために勉強すべきなんだと気づいた。同じホームステイ先に、中国人留学生がおり、夕飯から二時間ほど毎日いろいろなことを話した。このおかげで、私のスピーキング力は向上したと思う。ニュージーランドと中国という二つの国のことを知れた良い経験になった。英語でコミュニケーションをとることの楽しさを知った一方で、難しさも知った。海外旅行で現地の人と話すことはできるようになったかもしれないが、やはり現地で生きていくということはまだまだ道のりが長いと感じた。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
プログラムで大変貴重な体験ができたことを考えると参加費は妥当だと思ったが、渡航費は高かったように思う。
自由記述欄
人生で一番充実した一か月を過ごすことができたので、参加してよかったと心から思う。自身の英語力の低さに落胆することも多々あったが、それも含めて自分を見つめる良い機会になったと思う。今後も海外に行きたいと思った。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	工学部
課程・学年	学部・1 回生

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由（なぜ本プログラムを選択したのかなど）
将来長期留学することを考えているため、練習として海外での生活に慣れると同時に、そのときに必要とされるリスニング力、スピーキング力といった英語力の向上を図るため。また、自然豊かで日本と全く気候が異なる南半球の国に憧れを感じ、文化に興味を持ったため。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
旅行エージェント様が送ってくださった留学の心構えの動画（現地での生活の工夫、ホームシックについて、緊急時にどうするかなど）を見たり、留学に必要なものや現地の人へのお土産を買いに行ったりしました。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
授業は上のクラスに配属されました。午前中には授業はなく、午後からの授業でした。プログラムに参加していた学生は全員留学生で、日本人と中国人が多く、韓国人やタイ人の学生もいました。現地の授業は、日本にいたときの授業と比べて生徒全員に考えさせ、英語で話させる授業や、学生にプレゼンテーションをさせる授業が多かったです。トピックは、例えば、「自分のアイデンティティについて説明しなさい」「成功とは何か」「芸術とは何か」などといったものがありました。長期間留学しているほかの学生は自分の意見を表現する力を持っており、流石だなと感じました。また、ほかの国から来た留学生と一緒にご飯を食べに行ったり、アートギャラリーへ訪れたり、教室内にとどまらない活動も充実していました。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
母親と１７歳の息子がいる家庭にホームステイしました。ホームステイ先では食事と自分の部屋が与えられ、基本的には個人生活が多かったです。ホストマザーが作る食事はとてもバレエティが豊富で、とてもおいしかったです。ホストマザーとは主にインスタグラムで連絡をとりました。（帰宅時間、夕食の有無など）ホストマザーが話しかけてくれた際には英語でコミュニケーションがとれてよかったです。休日は主に友達と観光をして過ごしました。ニュージーランドは自然が豊富で、美しい風景や動

物と触れ合うことができて大変楽しかったです。
参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
留学エージェントの ACEJ 様が留学前の準備や留学中の注意点の書類や動画を送ってくださり、知らないことも多く、とても参考になりました。また、現地の先生はとても親しみやすく、生徒のことを気遣い、一人一人に積極的に話しかけてくださったため、純粋に会話を楽しむとともに、安心して留学生活を送ることができました。学生も優しい人が多く、学生同士で情報を共有することで充実した経験を得られました。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
授業はすべて英語で行われ、ほかの国からの留学生とはもちろん英語でしかコミュニケーションをとれないため、必然的に英語を話すことになるため、スピーキング力の向上につながりました。一方、現地で過ごしていく中で、自分の発音が聞き取られないことも多く、自分の弱さを発見することができました。与えられた問題に対して自分の意見をしっかり説明させられることが多く、自分の気持ちや意見を表現する力が養われました。学校で出会った韓国人の学生と仲良くなり、文化に興味を持ち、お互いの文化を尊重することの大切さに気付きました。近いうちに日本に来るそうなので、その時に会う約束をし、ネットワークを構築することができました。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
プログラム参加費は高かったですが、それに値する経験を得ることができたと感じます。航空機に関しては格安プランで行きたい人が多いと感じたので、個人で選べるようにしてほしいです。また、現地ではペットボトルの水が NZ$4(日本円で 340 円ほど)と物価が高く、大変費用がかかりました。
自由記述欄
ニュージーランドは治安が良く、多民族国家であるため、初めての留学場所としてとても住みやすかったです。国民がフレンドリーで、バスの運転手に対して挨拶を交わす人が非常に多く、いい気分になりました。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	薬学部
課程・学年	学部・2 年

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	8 月 14 日（月）~9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由 （なぜ本プログラムを選択したのかなど）
大学に入学してから高校時代のように英語を毎日勉強する習慣がなくなってしまい、英語力の低下を感じることがありました。サークルで留学生と話すときに言いたいことを言えなかったり、アルバイト先で海外から来られたお客様と接するときに会話がうまくできなかったりというようにもっと英語が話せたらと思う時が多くありました。また将来海外で仕事をしたいという夢もあったため、英語の勉強をしようと思い、大学内の留学案内を見ていたところ本プログラムを知ったため、参加を決めました。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
渡航先がどのようなところなのかということや、気候などは調べました。プレースメントテストはその時の英語の実力を知りたかったので特に準備はしませんでした。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
日本の授業とは違って、先生が生徒に問いかけることが多くそれに対して生徒も思ったことを発言するというような授業が多かったです。日本だと思ったことがあっても咄嗟に言えないことが多いですが、現地では他の生徒が積極的に発言するのを見て自分も思ったことを前向きに先生や他の生徒に伝えることができました。他の生徒が考えていることを知って、考え方の幅が広がったように感じます。また日本人だけでなく、他の国からも英語を勉強しに来ている方もいて、現地の文化だけでなく、様々な文化にも触れられました。思ったことをうまく言えないこともありましたが、何とか伝えようとして英語力が向上したと思います。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
朝型で、カフェなども早朝からやっていて 16 時 17 時ごろには閉まっていました。夜だけ営業しているレストランもありましたが、一日中営業しているものは少なかったように感じます。食事は小麦中心で、ホームステイ先で出たものはパスタやミートパイ、キッシュなどでした。ですがたまにカレー

や炒めたご飯も作ってくださりました。街中にはたくさんの種類のレストランがあって、現地の食べ物ももちろん、日本食や中華、韓国料理、タイ料理などアジア圏料理の専門店たくさんありました。
参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
渡航前まではこまめに持ち物や提出物などの確認をしてくださったり、現地についてからも毎週確認メールを送ってくださってこころ強かったです。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
一番向上したと思うのはリスニング能力です。最初は言っていることを理解できないことも時々ありましたが、授業を受けたりホストファミリーと話したりすることで言っていることはほとんど理解できるようになりました。スピーキングについてもまだつまってしまうこともありますが、渡航前に比べると自信もついてかなり向上したように感じました。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
ニュージーランドは物価が高いため、食費がかなりかかりました。留学全体にかかった費用は 115 万円程度でした。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	教育学部
課程・学年	学部 2 年

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由（なぜ本プログラムを選択したのかなど）
高校生の頃から一度短期留学をしてみたいと思っていましたが、コロナ禍ということもあり、なかなか実現できませんでした。コロナもようやく落ち着き始めたこの 2 年生の春に、KULASIS 上でプログラムの募集があり、これは行くしかないと思い参加することにしました。 アメリカではなくニュージーランドを選んだ理由は、南半球に行ってみたかったことと、より自然が豊かな場所で 1 か月間を過ごしたいと考えたことが大きな理由です。南半球は日本から遠く、人生の中であまり行くことができないのではないかと思っていました。ですので、このような機会があるのだから行ってみようと思い、ニュージーランドを渡航先に選びました。
参加にあたって、どのような準備を行ったか（例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
ホームステイとのことだったので、ニュージーランド人の文化になじめるよう、食文化や歴史についてネット上で情報収集をしました。 事務的な手続き（飛行機の手配や保険）は ACEJ の方々が分かりやすく教えてくださったため、あまり苦労することなく手続きを進めることができました。 プレースメントテストは、まったく準備をせずに取り掛かってしまったため、テストの中で出てきた日常的な英会話の語句などが分からず戸惑ってしまいました。ですが、自分の実力を伸ばすための留学なので、戸惑いながらもそこまで落ち込むことはなく留学に向けて気持ちを高めていきました。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと（講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
私は中国人が半分くらいを占めるクラスで授業を受けていました。授業のスタイルは Class1、Class2 ともに周りの人たちと話しあうことが多く、さらにリスニングもほぼ毎回行っていました。授業を受ける中で一番驚いたことは、クラスメイトの中国人の英語の運用能力の高さと意見を構成する力の高さです。 彼らは、どんな問題、テーマについても自分の意見をきちんと持っていて、しっかりした理由をつけて発言していました。それは、真面目な子だけでなく、授業をあまり聞いていないように見えた子でも同じく、先生に当てられると自分の意見をしっかりと述べていました。自分は、授業をきちんと聞いていましたが、意見を組み立てることが難しく、ぼんやりとした意見しか発することができなかったので、

自分との違いに驚きました。さらに、もちろん意見は英語で述べるわけですが、彼らは詰まることはあっても流暢に英語を話していて、そこにもすごく驚きました。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
私は 1 か月、ホームステイをしていました。食事面で日本と違うと感じたことは、日本は主食・主菜・副菜数品という献立が主流なのに対し、ニュージーランドでは一品料理やワンプレートの料理が主流だったということです。主食に対する認識も違うように感じ、日本では主食と言えばお米やパン、麺だと思いますが、ニュージーランドではじゃがいもやさつまいも、トルティーヤチップスなども主食にカウントしていたように思います。私は、これらはあくまで“添え”の認識だったので、初めの方は驚きました。 また、生野菜の値段が高すぎるためか、ほとんどサラダを食べる機会がありませんでした。これも日本と違う点だと思います。 ホームステイの際に最も驚いたことは、ホストファミリーの寝る時間がとても早いということです。ニューｚ－ランド人はおそらく早寝早起きの習慣が身についているのだと思います。私のホストファミリーは 10 時には自室に戻り、遅くとも 11 時には寝ていたと思います。日本では、私は 2 時に寝ていますし、親も 12 時を回ってから寝ることがほとんどなので、自分たちとの生活スタイルと全然違っていて驚きました。友達のホストファミリーは夜 7 時半には寝ると言っていました。その代わり、起きるのは早いそうで、4 時半に起きていると言っていました。私のホストファミリーは 6 時半に起きていましたが、しっかり睡眠時間をとっていてとても健康に良いと思います。 留学に行く前は、海外なので治安についてかなり心配していましたが、行ってみると、日本よりも良いのではないかと思うほど治安が良かったです。ホームレスの人々や薬物をやっている人も時折見かけましたが、街にゴミが落ちているということもあまりなく、騒いでいる人や酔いつぶれている人もあまり見たことがなかったです。それに、現地の人々はほとんどの人たちが優しく、カフェの店員さんでも優しく接してくれました。
参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
学校の窓口に、留学中困ったときは相談するように言われていましたが、その対応が不十分だったように思います。私の友達がホームステイ先を変えたいと相談したときに、対応したスタッフの人がホストファミリー側の味方をして全然助けてくれなかったと聞きました。それに、授業が 17：15 に終わるのに、窓口は 16：30 に閉まるため、授業後に相談することが出来ず授業を抜けなければならなかったため、その点に関しても不十分であったように思います。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
リスニングを学校で行い、滞在中の家でもホストファミリーとの会話があったため、リスニング力はかなり向上したと思います。家で毎日ドラマを見ていたのですが、初めの方は何を言っているのかあまりわかりませんでしたが、最後の方はドラマを楽しむことができるようになっていました。 スピーキングについては、自分の中の英語を話すハードルは下がったように思いますが、英語を流暢に話せるようにはなりませんでした。英語を話すハードルが高いことは自分の課題点の一つだったため、解決できて良かったですが、単語を知っているのに話すときに使うことができないという課題点をより痛感し、もっと練習しなければならないなと感じました。 異文化交流については、本当に自分から行かないと何も始まらないなと実感しました。私は友達が欲しか

ったので自分から積極的に行動し、その結果日本人、中国人、韓国人の友達を多く作ることができました。しかし、もし受け身の姿勢だったとしたらこんなにも友達を作ることはできていなかっただろうと思います。ほかにも、意見を言うときにも積極性は必要不可欠でありますし、積極的に行動することの大切さについても改めて実感しました。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
渡航費は、直行便だったせいもあり少し高かったように思います。しかし、快適だったのでよかったです。プログラム参加費については授業料やホームステイの費用などが諸々込みだったので、妥当だと思いました。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	理学部
課程・学年	学部・３回生

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由 （なぜ本プログラムを選択したのかなど）
どこか短期でもいいので留学しようと決めたときには、卒業研究と留学を被らせたくなかったので、三回のこの時期に行くしか選択肢が残っていなかった。ニュージーランドの方がワシントンより緑の自然が多そうで、期間も長かったし、安かったのでニュージーランドに決めました。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
YouTube でどこに旅行したいかを予習していた。英語に関しては何もしませんでした。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
僕のクラスは中国と日本の 2 カ国の人で構成されていた。もう少しいろんな人がいてもよかったのかもしれません。基本的に当たり前ですがスピーキングが多かったです。先生たちが話す英語が（South）American, British, Kiwi など結構多種多様だったのは面白かったです。
現地での生活について （滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
おそらくホストマザーがフィリピン系の人だったので日本以上にお米を食べる機会があったのは想定外でした。工事現場で働く人達やおじいさんおばあさんが喋る Kiwi accent は早いし、さっぱりわかりませんでした。オークランド大学が近くにあり、また NZ が他民族国家なので、案外京都の観光地で見ている光景と人種的な視点では変わらないような気もします。ただ、移動手段の面で少し問題があります。田舎の観光地に行く際に、ツアーで行かれる方は添乗員さんが案内してくれるのでいいのですが、ツアーじゃないもので何処かに行く方は公共交通機関がなさすぎて苦労すると思うので、国際免許をとってレンタカーでも借りて旅行されるのが良いかと思います。どうやら国際免許がなくても、ＮＺ入国から一年以内ならば日本の免許で車を運転することができるらしいのですが。レンタ

カーを借りれるかどうかは知りません。そのため国際免許を持っておくと良いでしょう。車がないと、車で 50 分の場所に行く事さえもできません。なので、国際免許を持っていない方でツアーが性に合わない方は都市部を観光するのがいいと思います。
参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
サポート体制は過保護なんじゃないかって思うくらいしっかりしています。参加していた学生はアジア人が大半だったからかわからないですが、集団を作っていました。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
英語学習のモチベが上がった。お腹の調子さえ整えれば、どこでも生きていけるように思えた。一番の成果は、人種問わず普段出合わないようなコミュニティの人と出会えた事で、自分にはその人達の行動がとても新鮮に思えた。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
仕方ないかもしれないですが、費用は高いと思います。
自由記述欄
理学部じゃない人が多い環境というものをしれたのは非常に大きいと思います。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	文学部
課程・学年	学部２年

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由（なぜ本プログラムを選択したのかなど）
もともと留学に興味があり、長期で行きたいと考えているが、就活やサークルなどもあり明確に行くと決めていなかったので、挑戦しやすい１カ月の短期プログラムに参加しようと考えた。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
渡航前に英語の民間試験を受験し、自分の英語力の現状を把握した。渡航先の基本的な情報収集も行った。プレースメントテストの対策は、自分の実力に合ったクラスに入れるように特に行わなかった。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと（講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
授業で日本と大きく異なったのは、英語を話す機会がかなり多いことである。日本と同じようにリーディングや文法を教わることもあったが、生徒同士で話したり答えを読み上げたりするといった、生徒が積極的に授業に参加する場面が多くあった。先生も楽しく英語を学べるように工夫して下さった。最も印象的だった授業は、卵を約５m落としても割れない機構を紙だけで作るというグループワークである。自分が良いと思った機構を英語で伝えるのは難しく、結局全グループ失敗してしまったのだが、楽しく作業できた。
現地での生活について （滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
私のホストファミリーはとても親切で、食べ物もかなりおいしく、快適に１カ月過ごすことができた。食事に野菜が少ないのと、シャワーの時間を短くしなければならなかったのは苦労した。また、ホストシスターが 2 人いたのに、彼女たちがいつもゲームをしていてあまり話せなかったのは残念だった。ただ、私をスキーに連れて行ってくれたり、よく夕食後にデザートを出してくれたりと、本当に良くしてくれたと思う。 放課後や休日は、よく友人たちと学校近くに観光しに行った。あまり大きな都市ではなかったので、放課後にも行ける距離に観光スポットがいくつもあったのは良かった。また、適度に都会で店も多く、治安も良いので安心して過ごせた。

参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
渡航中特にトラブルがなかったので、サポートを利用する機会はほとんどなかった。何か問題があった時は、教室と同じ建物の中にレセプションがあったのですぐ相談しに行ける体制ではあったと思う。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
１カ月では英語が明らかに上達する訳ではないと分かっていたし、実際そうだったが、スピーキングに自信はついたと感じる。学校がある日は授業中でなくても仲の良い友人とは英語で話すようにしていたが、それも効果的だったと思う。リスニング能力も、ネイティブの英語を四六時中聞いているためある程度ついたと考える。 ニュージーランドはマオリの文化をとても尊重していて、学校でマオリの踊りを少し習ったり、国立博物館ではパフォーマンスを見ることができたりマオリ関連の展示が充実していたりと、様々なかたちでその文化を学ぶことができた。また、同じクラスに南米や他のアジアの国から来た人もいたので、その人たちを通して彼らの出身国と日本の違い・共通点を見つけることもできた。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
参加費は高額ではあるし、他の必要経費も含めればさらにかかるが、一生忘れることはない充実した１カ月になったので妥当ではあると思う。
自由記述欄
本当に楽しくて充実した１カ月だった。短期なら挑戦しやすいと思うので、留学に迷っている人はぜひ挑戦してみて欲しい。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	文学部
課程・学年	学部・1 回生

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由（なぜ本プログラムを選択したのかなど）
英語力・英語を介したコミュニケーション能力の向上のみならず、海外経験を通して自分の視野・世界を広げることが目的でした。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
京大生協の開催する英会話講座の受講を通してスピーキング力の向上に努めました。また、現地ニュージーランドで放送されているドラマ番組を視聴し、ニュージーランド英語を聴くのに慣れる練習をしました。プレースメントテスト対策は行っておりません。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
私の担当された先生は 2 人いて、1 人はとてもハイテンションで包容力があり授業初日から生徒全員の顔と名前を覚えてくれているほど生徒に対して愛情のある方でした。もう 1 人も生徒をいじったり、生徒にいじられたりして愛嬌のある先生でした。参加学生は日本人・中国人が圧倒的に多く、韓国人・コロンビア人・タイ人が一人ずついました。別のシーズンには南米人多めだったそうなので、もう少し出身国分布にばらつきをつけてほしいとは思った。英語力に応じたクラス分けにより午後授業のクラスに配属された私たちは、週 1 回、午前に遠足としてオークランド市内の観光スポットを巡るプログラムに参加できました(雨天中止でしたが)。植物園・博物館・火山・ビーチをめぐりました。午後から始まるスピーキング授業は 2 時間× 2 コマで、社会問題など毎日異なるテーマについてディスカッションしたり、プレゼンテーションを行ったりしました。あと学内にはコーヒーメーカーがあり、授業の前後にはその周りでたむろして会話を楽しみました。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
私はホームステイをしていましたが、人によっては同じホームステイ先にルームメイトがいる場合がありました。自分専用の部屋を用意してくれて、食事も口に合ったものを十分な量提供してくれました。ただ、自分に充てられた浴室は狭く、日本と違い基本的に浴槽などはありません。冬だったので寒さや風邪にも気を付ける必要がありました。一方で現地の人は冬でも薄着の人が多く、また急な短時間の雨が降りがちなので傘も差さない人が多かったです。時々デモが起こるようですが、基本的に治安は良いです。
参加学生のサポート体制について

（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
何もトラブルに巻き込まれることがなくサポート体制の世話になることがなかったのでわかりません。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
英語を話すことにはかなり慣れましたが、リスニング力の向上には少し時間がかかるみたいで、現地でも耳慣れのために字幕付きのドラマを視聴していましたが、ネイティブスピードについていけるほどには上達しませんでした。感覚としては、友達と英語で喋っているうちに英語のスイッチが入る感じがあり、瞬間的に英作文を連続で行えるようになります。クラスメイトには中国人が多かったので、第２外国語として京大で学んでいた中国語がかなり役に立ちました。英語で中国語をレクチャーしてもらうことで中国人と仲良くなるのを通して英語コミュニケーションを上達させている友達もいました。私自身も中国人からいくつか生きた中国語を教えてもらい、帰国後に中国語を学ぶ意欲が高まりました。授業のプレゼンテーションで彼らは母国の伝統文化などを紹介していて、異文化理解を深められました。韓国人生徒とは特によく喋り、韓国の兵役事情など詳しく聞くことができました。留学を通して、世界には様々な人がいて、日本の同年代の人間であっても、自分よりも圧倒的に海外経験豊富でかつ向上心あふれる大学生がいることを実感しました。自分の英語力をベースに楽しそうに外国人と話す彼らに刺激され私の向上心や積極性が上がり、地元の人に自ら話しかけてコミュニケーションをとるという目標も達成できました。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
参加費・渡航費ともに高額ですが、それに見合った経験が得られました。現地で旅行も楽しむとなるともう少し費用が必要なので現金・クレジットカード残高は多めに携えていった方が望ましいです。
自由記述欄
ニュージーランドは公共交通機関が発達しておらず、オークランド市を出て旅行をするとなると飛行機の予約またはバスツアーの参加が必要になるので注意してください。また、個人的には留学を終えて、せっかく身につけた英語力を維持しようと思うようになり、留学前と比べて英語に関わることが増えました。ほかにも様々な心の変化は生まれると思うのでぜひ留学をおすすめします。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	経済学部
課程・学年	学部 4 年

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由（なぜ本プログラムを選択したのかなど）
・これまで海外経験が一切無く、海外での生活に興味があったから ・また、内定先企業の社員の方から長期で海外に行けることは社会人になってからではできない経験であるとの話を聞いたのでぜひこの機会に経験してみりょうと思ったため
参加にあたって、どのような準備を行ったか（例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
正直何もしませんでした。ただ、弟がウェリントンに留学していたのでそこからニュージーランドの情報を得ることはできていました。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと（講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
私のクラスは日本人が半分ほどで残りの生徒は中国・韓国出身の生徒が多かったのです。特に中国の生徒は授業中の積極的な姿勢が印象的でした。具体的には、先生の出すクエスチョンに対して自分が分かれば次々に答えを言うなどです。私自身もどちらかと言えば積極的に発言することが好きなので、そうしたスタイルで授業が運営されていたことを好ましく感じました。日本のように挙手して当てられた生徒一人が発言するスタイルであると間違いを恐れることもあると思うのですが、次々に分かった生徒が 発言スタイルであるとあまり間違いを恐れずに発言することができるようにも感じました。一方で、このようなスタイルでは、ほぼ授業に参加しなくともやり過ごせてしまうという意味では生徒間での格差が大きくなってしまうような気もしました。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
町の人々が皆フレンドリーであるように感じました。何か困ってそうであれば積極的に他人の自分にも声掛けをしてくれますし、カフェで話していると日本語で話しかけられたり等、多くの人が他人との会話を楽しんでいるように思いました。また、ホストファミリーも大変親切な方々でした。料理については、意外にも週に 3 回ほどはお米を食べていたのでそれほど日本の料理が恋しくなることはありませんでした。自分の部屋にはシャワーとトイレがついていてシャワーは一日 10 分間入ることが

可能でしたので問題ありませんでした。洗濯は週に二回でしたので、そちらについても困りませんでした。ホストファミリーには一歳と五歳のお子さんがいて、二人ともとても懐いてくれたので本当に楽しい時間を過ごせました。
参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
特に不満点もありませんでしたし、快適に一ヶ月間過ごすことができました。また、大学によっては参加前に参加学生の顔合わせの機会があった大学もあるようで、そうした大学の学生達は初週から仲間内でアクティビティに参加するなど、少し羨ましくもありました。私は学校が始まって 3 日目頃から仲の良い友達ができたのでその友人達とニュージーランドを満喫することができましたが、それまでは誰も知り合いがいない状態で授業が始まったので、このまま学校とホームステイ先の往復生活で終わってしまうのではとの危機感も覚えました。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
正直なところ、スピーキング/リスニングが飛躍的に向上したとは感じていません。（TOEIC スコアなどで数量的に判断した訳ではありませんが）ただ、「英語で母語が異なる人とコミュニケーションを取ることの楽しさ」を知り、「間違ってても いいや/すぐに伝わらなくていいや」とのマインドを得ることができた事が最も大きな成果であると感じています。ニュージーランドに渡る時の飛行機内では海外のＣＡさんと会話する時に恐怖を覚え、必要最低限の会話で済むように心がけていましたが帰る時の飛行機内では間違えてもいい・すぐに伝わらなくてもいいんだという気持ちで海外の CA さん及び隣の席の外国人の方と会話を楽しむことができました。
プログラム参加費・渡航費等の費用について（プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
渡航費については大学によっては自身で航空券を確保することができた人もいるようで、そうした場合は自分の航空券の半額ほどで済んだそうです。その点については不便に感じました。プログラム参加費については決して安くはありませんでしたが、それに足るだけの経験はできたと感じています。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	理学部理学科
課程・学年	一回生

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由 （なぜ本プログラムを選択したのかなど）
新しい世界と自分自身を見てみたいと考え、留学をすることに決めた。本プログラムを選んだ主な理由としては、留学期間がより長かったことと、以前母からニュージーランドの魅力についてきいたことがあり、ニューランドに興味を持っていたことである。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
洋画を英語音声・英語字幕で視聴して英語に慣れようと努めたり、ニュージーランドの旅行ガイドブックを購入したりしてみた。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
一クラスあたりの、人数が日本のクラスに比べて非常に少なく、積極的に発言しやすかった。途中で上のレベルのクラスに移ったのだが、特に移動後のクラスでは、中国の大学の生徒のレベルの高さに驚いた。英語力だけでなく、短時間で自分の意見を論理的に組み立てて人に説明する能力にたけていた。とても刺激を受けた。授業時間外のアクティビティでは、オークランドの有名なところの一つに現地集合して、観光したりした。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
ニュージーランドは非常に多文化で、町のいたるところに日本料理のレストランもみられる。食べようと思えばいつでも食べられると安心していたからか、留学中和食が恋しくなることはなかった。様々な国の料理は見られるが、ニュージーランド料理のレストランというのは見たことがない。マオリの料理は、特定の町に行かないと食べられない。 オークランドはあんなに坂が多い街だとは知らなかったので、非常に驚いた。オークランドの町を散歩するだけでもかなり疲れてしまうこともあった。 現地の人々は、本当に様々な人種の人がいて、ホストファミリーの人種も様々だった。日本よりも早く

就寝する家族が多いように感じた。
参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
クラスに関する相談を受け付けてくれるスタッフがいて、クラス変更の相談が気軽にでき、自分の要望も聞き入れてくれた。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
スピーキング力が劇的に伸びたわけではないかもしれないが、英語で話すことへの不安はかなり無くなった。また、どこまでが文化の違いによるもので、どこからが個人の問題なのかの区別が難しいと感じた。また、異文化を尊重するとともに、自文化を尊重することも大切だと感じた。自分自身は留学中特に感じなかったが、どうしてもいやなことは No ということが大切だと学んだ。日本人以外の留学生と話していると、自分にとってのあたりまえがほかのところではあたりまえでないことに何度も気づかされた。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
中国の大学の学生としかこの話題について話していないので他の国の大学のことはわからないが、大学からの支援金が少ないように感じた。授業は午前か午後のどちらかなので、それにしては授業料はこうがくであるように感じるが、授業外の時間もほかの留学生と交流できることを踏まえれば、短期留学に行く価値は十分にあると思った。
自由記述欄
自分の「好き」・「嫌い」をしっかりと表現している人が多く、素敵だと思った。とてもいい時間を過ごせた。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	農学部地域環境工学科
課程・学年	学部・３回生

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	8 月 14 日（月）~9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由（なぜ本プログラムを選択したのかなど）
生きていく上で将来必要とされるであろう英語力を向上しようと思ったため。大学に入った時から一回は留学をしてみたいなと思っていた。そこでクラシスを眺めていたらたまたまこのプログラムを見つけたので、参加を決めるに至った。
参加にあたって、どのような準備を行ったか（例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
あらかじめ、ニュージーランドの文化を知るために観光地を調べた。また、現地の人に日本を紹介するために、京都のガイドブックに目を通した。 英語に関しては、リスニングに慣れるために、アプリ「TED」をインストールして毎日定期的にリスニングの練習をした。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
日本全国で募られたプログラムということもあって、日本の学生が比較的多かったように感じた。授業はディスカッションの割合が大半を占めていて、最初の方は正直日本の学生と英語で交流するのは慣れなかったが、慣れてくると他の学生と楽しんで英語で交流することができた。 海外の学生の出身で多かったのは中国や韓国であった。その学生のほとんどが英語をうまく使いこなしていて、アジアの他国圏の学生は英語に対する意識が高いのだなということを知れた。またとてもフレンドリーだったので話しやすかった。 授業で一回ディスカッションしただけの台湾の学生に道で声をかけられた時は嬉しかった。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
ニュージーランドは南半球にあるため朝はとても寒かった。前がほとんど見えないほど霧がかかっていた時もあった。また、ニュージーランドは冬季に多雨な気候のようで、比較的強い雨が降る日が多かった。ホームステイ先はかなり田舎にあって、比較的築年数が長いと思われる家だった。家の中は埃が多く、奇妙な匂いがした。また、自分は犬アレルギーだということを知らなかったので、目や肌が痒く、くしゃみが止まらないので苦労した。ニュージーランドの家庭はかなりの割合で犬を飼育し

ているので、自分が犬アレルギーかどうかを把握しておくのはかなり重要であるように思う。シャワールームはもちろん湯船はないのでシャワーのみの生活だったが、温度調節が難しく不便だった。ホストファミリーの方達は優しかったが、あまり会話してくれずどこにも連れていってくれなかったので非常に残念だった。家の食事は普通だった。ホストファミリーの質によってかなりホームステイ生活の質は変化すると思う。 レストランの食事は美味しかった。レストランは本当に多種多様で洋食店、韓国料理屋、ハンバーガー店が多く、日本人が経営するラーメン屋や、辻利もあった。買い物をしたのは主にニュージーランド最大手のスーパー「Count down」で、生活に必要なものは多く揃っていた。 総じて、日本より不便な面はいくつかあるものの、大きく生活スタイルが変化することはなく、普通に楽しく生活することができた。
参加学生のサポート体制について（プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
最初のクラスのレベルがやや自分にとってはやさしかったのでクラスのレベルを上げる相談をしたが、親切に対応していただいた。授業の構成は、スピーキング、ディスカッションが大半の割合を占めていたので、楽しんで授業を受けることができた。 様々なケースに備えて連絡先を共有してもらったが、かなりその連絡先の数が多かったこともあってその辺りには十分に気を配られているということを感じた。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
まず英語面に関しては、1 ヶ月という期間の短さもあって、英語力が劇的に向上するということはないが、リスニングに対する抵抗は多少なくなったと思う。例えば、ホームステイ先でテレビを見て家族と会話することでテレビの内容を把握するのはかなり有効なトレーニングだと思う。スピーキングに関しては、より長いトレーニングが必要と感じた。ただ、間違いなく今後英語を勉強するための素晴らしい経験になった。また、店などにいって店での注文など基本的な会話をこなすことで英語そのものに対する免疫がついて苦手意識がより少なくなった。 日常生活では、異なる生活環境や生活様式を知ることができ、日本との違いをより明確に知ることができ、生活の多様性を受け入れることができるようになった。 また、現地の違う大学の人たちともインスタを交換するなどして知り合うことができ、良い人間関係を築くことができた。 さらに、自分は海外に行くことそのものに対する抵抗感があったが、今回の留学を通して海外の生活を肌で感じることができて、また海外に行きたいと思えるようになった。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
今回のプログラムを通して有意義な経験をたくさんすることができた。英語面ではもちろん、海外の文化を知れたり、色々な人と知り合うことができたりなど 2 度とできないであろう体験ができたので、多少の金を使ってでも行く意味が大いにあったと思う。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	文学部
課程・学年	学部 2 回生

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由（なぜ本プログラムを選択したのかなど）
以前から英語力を向上させるために留学をしたいと考えていたが条件の良いプログラムを見つけられなかった。本プログラムは参加費の支援を受けることができるうえに、期間が 4 週間と長すぎず短すぎずちょうど良いと感じたために参加を決めた。ニュージーランドは比較的治安のよいイメージがあり、アメリカ行きのプログラムよりも期間が長く費用が安かったためにこちらを選択した。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
プレースメントテストのリスニング対策のためにスマートフォンで CNN のアプリをインストールし、時間のある日はニュース動画を一本見るようにしていた。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
日本人の学生がクラスの 3 分の 2 以上を占めており、様々な国籍の学生との交流を期待していたため少し落胆した。日本人は授業中に発言することに対して消極的で、外国人は積極的であるという話を耳にしたことがあるが、国籍による積極性の違いはあまりなく単なる個人差であると感じた。 国籍によって英語の発音の仕方の特徴が異なるのが印象的であった。同じ日本人同士では発音が上手でなくても容易に聞き取れるが、母語が異なる者同士だと困難であるということを発見した。 講師も生徒も比較的時間にルーズであり、授業に遅れてくることが頻繁にあった。日本人の時間への正確性を改めて感じた。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
様々な国の料理の店が多く、特にアジア料理店がそこら中にあった。日本料理店のほとんどが寿司屋であり、ニュージーランド発の寿司チェーン店もあった。 ホームステイ先ではトルコのタコライスからインドのカレーまで、様々な国の料理が出た。主食はパンばかりだと思っていたが、パン、パスタ、芋、米と様々な主食が同じくらいの頻度で出た。ホストファミリーはよく話しかけてくれたが必要以上に干渉はしてこず、プライベートが確立されていて快適であった。 オークランド市内を走るバスは、25 歳以下は運賃が半額で驚いた。ほとんどの乗客が降車の際に運転

手に“Thank you.”と言っていたのが非常に好印象であった。 オークランドは気候の変動が激しく、急に雨が降り出したりすることがよくあった。「ニュージーランドは一日に四季がある」と現地で何度か教えられたが、まさにその通りであった。
参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
サポート体制は説明を受けた限りでは万全に整っている印象を受けたが、特に困ったことはなかったため実感としては感じなかった。週に一度オークランド大学の学生と交流ができるプログラムがあったが、交流というよりは留学生同士の交流会を学生が進行するという感じで、一対一で会話をしたりするということはなかった。留学生同士では、授業以外ではどうしても日本語を使いがちであり留学中という実感がわかなかった。個人的に数人の友達と英語縛りで会話をしたのは良い経験であったと思う。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果（英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
英語力に関しては、正直あまり変化を感じなかった。授業は既知の内容がほとんどであり、新たな文法を学ぶということはなかった。しかし、ネイティブスピーカーが使用する独特の言い回しなどはいくつか学ぶことができ、より生きた英語を学ぶ機会になったとは思った。 友達と英語のみで会話をするというルールを設定したところ、伝えたいことを頭の中で英語で言語化する習慣が身についていた。これは英語を話せるようになるために効果的であると感じた。 異文化を学ぶということに関しては、ニュージーランドの先住民であるマオリについての知識を新たに得ることができた。テレビ番組でマオリが特集されていたり、マオリを紹介する博物館などの施設がいたるところにあったりするなど、マオリの文化を尊重し保持していこうという風潮が見受けられた。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
飛行機のチケットや保険などは自分で手配すればより安く済ませられそうだと感じたため、自分で手配してもいいように融通を利かせてほしいと思った。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	法学部
課程・学年	学部 1 回生

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由 （なぜ本プログラムを選択したのかなど）
来年度に交換留学をしたいと考えており、まず留学や英語を中心とする大学生活に慣れるために短期語学留学に挑戦したいと考えた。今年度夏に行われる短期語学留学の滞在先にはオークランド大学とワシントン大学の二つがあったが、中学生のときにワシントンで文化交流目的の留学経験があることや、前者の方が期間が一週間長いことからより深く英語を学べると思い、本プログラムに参加を希望した。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
現地での授業についていくため、BUSUU でスピーキング力や語彙力をつけた。ガイドブックから生活様式、公共交通機関、治安についての情報を得たり、たびレジに登録して現地情報をすぐに手に入れられるようにしたりした。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
講師、参加学生共に意欲的で授業中は積極的に発言する姿勢が多く見られた。日本におけるアクティビティとの違いは講師、学生双方向の授業形態をとっていることや、学生が間違いを恐れずに発言していることなどである。特に印象に残ったことは、周りの学生のレベルが高かったことだ。おかげで私もモチベーションが高まり、またどの学生も社交的だったためお互いに教え合ったり頻繁に意見を交換したりし、いい刺激を受けることができた。学生は日本人と中国人がいたのだが、中国人の方がスピーキング力に秀でているように感じた。
現地での生活について（滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
ホストファミリーがベトナム出身だったので食事もアジア料理中心で食文化の違いに衝撃を受けることはなく、人間関係も良好で、快適な生活を送ることができた。一方で、どこの家庭でも洗濯は週に一回しかしないことやシャワーの時間が一日 10 分と決められていることなど、日本以上に節水に気を使っていることが印象的だった。坂が多いので毎日登っているうちに体力がついたし、現地で一度も体調

を崩さず過ごせた。路上喫煙が非常に多かったのが意外だった。
参加学生のサポート体制について 5 （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
最初の授業日に ELA のシステム、注意すること、生活の様子などを説明するオリエンテーションがあったのがとても助かった。現地生活 4 日目に不審者に話しかけられてお金を暗に要求された経験をしたのだが、ELA に相談したところ、そのような緊急事態の対処法、緊急連絡先、メンタルケアの窓口などを丁寧に教えてもらうことができたので学生のサポート体制は充実していると考える。わからないことがあって質問しても解決するまで真摯に対応してくれた。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 8 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
1 日に 2 つ授業があるのだが、後半がスピーキングを練習する授業で、ディスカッションやディベートに積極的に参加することを通じてスピーキング力が向上したと感じる。講師に自分の意見を述べ、より適切な言い方を教えてもらったことで、IELTS 対策にもなった。毎週水曜日の午前中にアクティビティがあったのだが、これを通じて新たに他クラスの学生とも仲良くなることができた。私は第二外国語を中国語にしているのだが、この話題をきっかけにクラスメイトの中国人と仲良くなり、お互いの言語を教え合うなど、ニュージーランド以外の文化にも触れ、英語を日常的に使用することができた。加えて、SNS でも繋がっているので帰国後も定期的に英語でやり取りをしている。
プログラム参加費・渡航費等の費用について 3 （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
現地では貴重な体験をし、英語力向上にも非常に貢献したのでプログラム参加費は妥当な値段だと感じる。一方で、渡航費は東京からオークランドの直行便を利用したこともあり、比較的高いと感じた。今回は最初から直行便しか予約することはできないと言われたが、今後は別の場所を経由する便も利用できるようにすれば良いと思われる。

参加報告書_語学研修プログラム参加費支援

所属学部/研究科	薬学部
課程・学年	学部・2 年

1. プログラム基本情報

留学先国・地域	ニュージーランド
大学名	オークランド大学
プログラム名	General English
実施期間	2023 年 8 月 14 日（月）~2023 年 9 月 8 日（金）

2. プログラム参加に向けて

参加を希望した理由 （なぜ本プログラムを選択したのかなど）
自分の英語力を実際に英語圏の国で試してみるため、また、英語圏の国の中でも、ニュージーランドは多文化の国であるため様々な文化に触れることができると考えたためです。
参加にあたって、どのような準備を行ったか （例えば、渡航先国・地域の情報収集、渡航の準備、プレースメントテスト対策など）
特に特別なことはせず、ホームステイにおいて必要な物を購入することです。

3. プログラム参加中について

授業・アクティビティで印象に残ったこと （講師・参加学生の様子、日本における授業やアクティビティとの違い、参加中のトラブルなど）
はじめは皆積極性に欠けていましたが、徐々に積極的に授業に参加するようになり、いつでも質問のしやすいとてもいい感じの雰囲気だったことが印象に残っています。アクティビティは最初の方は積極的に参加すると友達ができやすく、その後はアクティビティに毎回出席はしなくても各自別の日に観光するのもよいと思います。
現地での生活について （滞在先の環境や食事、現地の人々その他日常生活など）
食事について、朝ご飯はフルーツやシリアルやパンがあるので自由に作って食べてよいという感じで、夜ご飯はこちらが連絡しない限り作って待ってくれています。ただ、野菜は少なめです。午前授業の場合授業が始まるのが早く、早寝早起きの習慣がつき、バスから日の出を見ることができたためとても健康な生活ができました。また、自由時間がたっぷりあったためオークランド市内を観光することが毎日できました。
参加学生のサポート体制について （プログラムコーディネーター・現地学生チューターによる支援、参加学生同士の協力など）
現地では困ったことがあると親身に対応して下さります。学生同士でも仲良くなりやすく、話しかけやすいため、友達ができやすいです。

4 プログラム参加を振り返って

プログラムで得られた成果 （英語のスピーキング力・リスニング力向上、異文化理解・交流、現地学生とのネットワーク構築など）
現地の人と会話をすることで自分の英語力が今実際どれくらいであり、これ以上会話のレベルを上げるためには何をすればいいのかが明確に把握しやすく、リスニング、スピーキングの上昇のみならず、英語学習のモチベーションが得られました。 ニュージーランドではアジア以西の様々な国から人が集まっている国であるので、様々な国の料理を食べることができ、タクシーに乗っているときでさえ国外の人との会話をすることができました。これは文化的にも、そして様々ななまりの英語を聞くチャンスともなるので英語力の上昇という意味でもよかったです。 また、ホストファミリーがサモアとフィジーから来た方々だったためホストファミリーと良好な関係を築く上でポリネシアの様々な文化を教えてもらうこともでき、そこもまた貴重な体験となりました。
プログラム参加費・渡航費等の費用について （プログラムの内容や現地で得た体験を踏まえて、どのように感じたかなど）
高くはありますが、とても有意義な時間であったため妥当だと考えます。日本でも英語を学ぶことはできますが、やはり実際に現地の人とどれほど英会話が行えるかは行ってみないとわからないので英語力がどのようなレベルの人であっても十分価値のある体験となると思います。
自由記述欄
1ヶ月という短い時間ではありましたが、英語圏の国に一人で滞在することは英語力の上昇が得られるだけではなく人生経験としてもとても価値のあるものでした。